

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第39号 2019年12月01日

今年も余すところ一か月となりました。
さて、ジョイコン発足から8年目になる来年（2020年）も、これまで同様6回の公演（奇数月第3日曜日）を予定しております。
出演者の選定も、皆様から寄せられたアンケートでのご希望等も参考にして、1月に和楽器、3月に弦楽四重奏、5月声楽、7月ピアノ独奏、9月調整中、11月ピアノ三重奏とほぼ決定済みです。
引き続き「ジョイコン」を宜しくお願い申し上げます。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」（第39号）をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内
 - ◆第43回コンサート
- 【2】今後の予定（先取り情報）
 - ◆第44回コンサート
 - ◆第45回コンサート
- 【3】息遣いによって様々な表情を描き分ける日本の管楽器「尺八」
- 【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内

■■第43回コンサート■■

- ◇2020年1月19日（日曜日）
14:00開演（13:30受付開始）
- ◇出演：黒田鈴尊（尺八）、平田紀子（箏・三絃）、寺井結子（箏・三絃）
- ◇プログラム（予定）
 - ◆「宮城野鈴慕」
 - ◆「桜川」：光崎検校
 - ◆「断章Ⅰ～尺八・箏・三絃のための～」：細川俊夫
 - ◆「尺八と二面の十三弦箏のための戯曲」：三善晃
 - ◆「尾上の松」：作者不詳（宮城道雄 箏手付）
- ◇料金：大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円
- ◇会場：大倉山記念館ホール

第43回ジョイフルコンサートは
『邦楽三重奏団 壽 新春公演～箏・三絃・尺八で迫る江戸の室内楽』と題して、お届けします。

黒田鈴尊さんからメッセージが届いています

お目出度い季節になると街中やテレビ等からも頻繁に聞こえてくる邦楽器ですが、直接空気を振動させてお届けする音色は、全くの別物です。
今回は、古典と現代両方の飛びっきりの傑作名曲を、心を込めてお贈りいたします。

今回のジョイフルコンサートは新春にふさわしく、世界を飛び回って活躍されている邦楽三重奏団の方達による演奏です。
邦楽三重奏を聴いたことがないので、とても楽しみにしています。

☆宮城野鈴慕/作者不詳

「鈴慕」は尺八の古典本曲の曲名で「鈴慕」を含む尺八の曲名はたくさんあります。まず「鈴を慕う」という言葉がとてもきれいだと思います。

中国、唐時代の禅僧普化が鐸（大きな鈴）を鳴らしながら、恐らくお布施を請うためにねり歩いていたその鐸の音を弟子の帳伯が慕い尺八を吹いたことが語源とされています。ただ定かではないそうです。

普化を始祖とした普化宗が日本に伝わり尺八を法器として禅の修行や托鉢のために演奏するようになりました。各寺常用の一曲を「鈴慕」と呼び、同一曲が伝承系統により、変化して多くの曲になって行ったと考えられています。寺名や地方名を鈴慕に付けた曲が多々あるのはそのためだと思われます。

●宮城野鈴慕

尺八古典本曲で奥州系の鈴慕で陸奥の国仙台地方の虚無僧寺で吹かれていたものと考えられています。その中でも伝承系統によって若干の違いも見られるそうです。

尺八の演奏を見るとよく首を振って尺八を揺らしビブラートをかけているようなところを見ますが、これはユリ奏法と呼ばれる演奏技術です。宮城野鈴慕では首振りではなく、底ユリという技法が使われるそうです。鈴慕の中では女性的で雪を踏みしめて歩くかのような雪深い地方の情緒がこれにより表現されるそうです。是非演奏中に注目し、雪景色を思いながら聴いていただきたいです。

☆三善晃

演目の中に三善晃さんの曲があり、私はピアノを習っているので少し思い入れがあります。

私の中で一番強烈なのは「のら犬ドジ」という合唱曲です。音は飛ぶし、不協和音で、拍数の変な小節が入るし、とても難しかったです。しかもピアノの伴奏はとても高度なテクニックが必要なもので、私はとても弾けませんでした。ストーリーは簡単に言うとドジという野良犬がいて、保健所に連れて行かれてしまっ、殺されるかもしれない、でも最後は助かるというものです。音楽が相まってものすごくドラマティックに展開していきました。

その後、三善晃さんの写真を見て、髪の毛がぼさぼさでびっくりしました。失礼ですがこういう人を天才と馬鹿は紙一重というのではないかと思った記憶があります。

1年ほど前にピアノの先生から「あなたこの曲弾いてみたら」と渡されたのが、「海の日記帳」でした。子供のピアノ小品集と書かれていて、確かに長い曲はないし、楽譜も複雑ではないです。でも音の使い方とか和音の進み方が何ともお洒落だなと思いました。ものすごくセンスの良い人なのではないかと凡人の私は思います。

余りにも片方は不協和音が多くリズムも早く激しいですが、片方はすべてが穏やかで曲調が両極端でやっぱり天才だと思わざるを得ません。更に邦楽曲も書くなると驚いてしまいます。抽斗が無尽蔵だったんでしょうか？

どうぞお楽しみになさってください。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」はまだ受付けておりません

■■第44回コンサート■■

◇2020年3月15日（日曜日）

- ◇出演：カルテット・アマービレ（篠原悠那 Vn、北田千尋 Vn、中恵菜 Va、笹沼樹 Vc）
◇プログラム（予定）
◆ブラームス：弦楽四重奏曲 第1番 ハ短調 作品51-1
◆ウェーベルン：弦楽四重奏のための緩徐楽章
◆ピアソラ：ブエノスアイレスの四季

★予約受付開始：2020年1月20日（月曜日）午前9時より

■■第45回コンサート■■

- ◇2020年5月17日（日曜日）
◇出演：嘉目真木子（ソプラノ）

【3】息遣いによって様々な表情を描き分ける日本の管楽器「尺八」

尺八は竹でできた“たて笛”の一種で、管楽器の中で最もシンプルな構造で作られています。標準的な長さが1尺8寸（約54・5cm）であることから「尺八」と呼ばれています。真竹の根元から7つの節が入るように切って、表に4つ、裏に1つの指孔を開けただけで、息を吹き込む歌口の部分は、表側に向かって斜めに切ってあります。

この素朴な作りは、構造的に進化をしていった西洋の管楽器とは対照的で、明治時代、ある西洋人が尺八の神秘的な音の秘密を確かめようと、尺八をまっ二つに割って見たが何の仕掛けもなかったという話もあります。

室町時代の僧の一休宗純（一休さん）も尺八を吹いていたそうですが、現在の尺八は江戸時代の「虚無僧（こむそう）尺八」または「普化（ふけ）尺八」と呼ばれていたものです。江戸時代の初め頃、尺八は普化宗（ふけしゅう）という禅宗の虚無僧だけが使うものと決められていました。虚無僧とは、武士が世を捨てて僧になった人のことで、編み笠をかぶって、尺八をお経代わりに吹き、人々の家を回ってほどこしを受けていました。明治時代になると虚無僧は廃止され、尺八は広く一般の人達も吹けるようになり、箏や三味線との合奏も盛んに行われ始めました。

尺八本来の尺八のみの曲を“本曲”といい、箏や三味線など他の楽器と合奏するものを“外曲（がいきょく）”といいます。明治時代以降になると、箏・三味線・胡弓による“三曲合奏”の胡弓に代わり、尺八が用いられるようになりました。

一般の尺八は5穴なので、指穴の開閉だけで出すことのできる基本音階は、レ・ファ・ソ・ラ・ドの5つの音になります（これを尺八の流派によって、ロ・ツ・レ・チ・リと呼んだり、ロ・ツ・レ・チ・ハと呼んだりします）。

1オクターブ（12音）を出すために、これ以外の音は穴を半開にしたり、息を吹き込む角度を変化させて対応します。吹き方で音程を下げることを「メリ」、上げることを「カリ」と呼びます。また強く吹くと出るオクターブ高い音は「甲（かん）」といいます。

尺八の奏法には指を使った奏法と首を使った奏法があり、音色や音程を変化させます。特殊な奏法としては、息の音を強調する「むら息」（ブホーッという激しい息の音をそのまま使う）、特定の2音をトリルのように演奏する「コロコロ」「カラカラ」、うがいをするようにのどをふるわせて演奏する「タマネ（玉音）」、1つの音を微妙に上下させる「ユリ（揺り）」などがあります。

「首振り3年、コロ8年」という言葉があります。尺八は音をうまく扱えるようになるまで年数がかかるという尺八の修行をさしている言葉です。

尺八は素朴な構造でありながら、奏者の技術によって無限の音色や音程を出すことのできる楽器です。最近では海外にも演奏者が多く、日本の楽器の中で最も人気のあるものになっているそうです。「コロコロ」「カラカラ」「メリ吹き」「カリ吹き」などの用語はすでに国際化しているそうです。かつては宗教的な楽器とされていたため、精神性が重んじられる一方で、ジャズや即興演奏にも活躍できる可能性も持っているようです。

私達が普通に使っている言葉に「呂律が回らない」があります。雅楽の音階に「律」と「呂」があり、ここからきているという説もありますが、尺八の楽譜が「ロ・ツ・レ・チ・リ」で書かれているので、尺八の音がうまく出せないことから「ロレツが回らない」と考える人もいるそうです。(のん)

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（11月17日公演）
『熊谷俊之 x 堀雅貴 ギター・マンドリンコンサート～織り成す撥弦楽器の響き』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」が50%、「良かった」が25%、「普通」が2%（残りは「無回答」23%）でした。

自由記入欄（ご感想など）には、
『大好きなピアソラの曲が2曲入っておりとても楽しみにしていました。また、初めての曲も多く、それも楽しみの一つでした』『かわいい楽器マンドリンとギターとのコラボが素晴らしかったです。お二人のトークも良かったです』
『前半はピアソラの曲が良かった。後半、マンドリン演奏も好きなのでお二人のかけ合い含め楽しめました』『ギターソロも会場の広さが丁度良く美しく響いて良かった。マンドリンのコンサートは初めてだったのでとても興味深く聴かせて頂きました』『「オーソレミオ」「浜辺の歌」で美しいトレモロを聴かせて頂いて満足しました』など率直な感想が数多く寄せられました。

また、『いつもヴァラエティ豊かな音楽が聴けるので楽しみにしています。次回は何か…とわくわくします』『すばらしいコンサートでした。アップルティもおいしかったです。ありがとうございました』『素敵な空間で心地良い響き、とても良い時間でした。また伺います』など、好意的な、そしてスタッフにとって嬉しいコメントも頂きました。アンケート回収数：52（回収率73%）

【編集後記】

先月17日、若手演奏家の登竜門として知られるロン・ティボー・クレスパン国際音楽コンクール（ピアノ部門）で務川慧悟さんの2位入賞のニュースが飛び込んできました。ジョイコン出演者では實川風さんに続いての快挙です。すると、複数のお客様からスタッフにメールが届きました。“7月のコンサートで聴かせていただきました。ニュースで知り、嬉しく思いました”、“實川さんも務川さんもジョイコンで聴けて幸せでした。そういう方たちをアレンジするジョイコンは素晴らしい。これからも楽しみにしています”と。スタッフ冥利に尽きるお褒めのメールでした。(お)

※このメールマガジンは、
大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■バックナンバー
メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更
メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
info@ohkurayama-joycon.com

.....
発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会
Eメール info@ohkurayama-joycon.com
携帯電話 080-8424-5108
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
.....